

長岡市が目指す
行政機能再配置の視点

- ①市域のどこからもバスなどで行きやすい便利な市役所や施設の配置
- ②市民との対話や市民サービス向上を重視した組織配置
- ③既存の空きビルや国の補助金の活用、不要となった土地の売却などによる徹底的な俊約

市ではこの課題について検討する行政機能再配置検討市

さらには長岡操車場地区への移転や支所庁舎の活用案は、交通の利便性や市民サービスなどの面から、いずれも適当でないことを検証しました。

また、中心市街地を移転先とした場合の駐車場対策は、既存の公共駐車場の活用と併せた最小限の施設整備により対応が可能であることが報告されました。

これらを踏まえて、市役所移転にかかる大枠の検討案(下表)が示されました。

市役所移転にかかる検討案

中心市街地分散配置案	厚生会館地区の整備と大手通地区の再開発にあわせ、段階的に本庁行政機能を分散配置していく	※現本庁舎の活用 幸町の現本庁舎には、教育系機能(学校教育、社会教育、科学博物館、中央公民館など)を集中配置する
厚生会館地区集中配置案	厚生会館地区の整備にあわせ、同地区の一角に本庁行政機能を一括集中的に配置する	現本庁舎と市立劇場、教育センターで、教育・文化面での連携や機能強化を図る

○行政管理課 ☎39・2208

全国初
撤退の通知は1年前までに
千秋が原南側部分に
ショッピングセンター
出店事業者と協定締結

このたび長岡市は、ユニー株式会社(愛知県)と、千秋が原南側部分へのショッピングセンター出店に伴う協定を締結しました。

この協定は、大規模ショッピングセンターの出店が、まちづくりや雇用など、地域社会に及ぼす影響が大きいことから、万一、将来撤退することになった場合の対応などについて、文書で確認したものです。また、出店にあたっての地場産商品の販売促進など、事業者の地域貢献のあり方に



▲協定書に署名後、握手を交わす森市長(写真左)とユニー(株)の佐々木社長

についても盛り込んでいます。こうした内容の協定締結は、全国初の試みです。

今回の協定締結について森市長は「自治体と企業が、地域経済や雇用について協議することの重要性を双方で確認できました。文書で約束を交わした意義は大きいです」と述べました。

協定のポイント

将来やむを得ず店舗を撤退する場合には
1年前までに市に撤退の通知

- ①従業員の配置転換や再就職
- ②後継店の誘致、地元テナントの後継店での営業継続
- ③周辺環境・治安の維持
- ④取引業者の経営への影響

事業者側は最大限の配慮をする

行政機能再配置検討市民委員会を開催

市役所移転の
検討状況を報告します

現在、市役所の本庁機能は、地方分権や合併による業務の拡大により、本庁舎のほか、市内各所の分室や分庁舎に分散しています。また、本庁舎は公共交通機関の結節点である中心市街地から遠いため、誰もが訪れやすいとはいえない場所にあります。そのため、合併して広がった市域のどこからでも気軽に来ることのできる、利便性の高い市役所の整備が課題となっています。

市民委員会は、(会長・豊口協長岡造形大学理事長)を設置し、四月二十六日と五月十八日、会議を開催しました。

委員会では、本庁組織の分散配置の現況や、現本庁舎の交通の便など、市役所配置の現状と課題について整理した上で、三つの視点(左上表)から今後の検討を進めることを確認しました。

厚生会館地区整備の基本理念



①誰もが訪れやすい
公共交通機関の結節点として、気軽に利用できる憩いのスペース



▲長岡市公会堂(昭和初期)

②新・長岡市のシンボル

新・長岡市の顔として愛着の持てるたたずまい



▲雪に閉ざされたセントラルパーク

③通年利用可能な広場

雪国の中心市街地にふさわしく冬季や真夏の利用を考えた空間



④若者が集う

多様で柔軟な発想に対応活気あふれる交流のスペース



▲プロバスケットボールbjリーグ公式戦(3月19日)

⑤にぎわいの創出

市民の交流や活動を支える、魅力的なイベントを体感できる

○まちなか活性課 ☎940-0062 大手通2の2の6 ☎39-2807 FAX39-2827 matinaka@city.nagaoka.lg.jp

多くの人が集うにぎわいの空間へ

厚生会館地区を整備します

市では、今年度から五カ年をかけて、厚生会館とその周辺地区を整備します。

このため、五つの柱からなる基本理念をまとめました。今後、地区整備の基本理念について、広くみなさんのご意見をお聞きしながら取り組みを進めていきます。

厚生会館は、かつての「長岡市公会堂」の時代から市民の活動の拠点として親しまれている施設です。しかし、建設から五十年近くたち、建て替えの時期を迎えています。

厚生会館地区は、鉄道やバスの路線が集まり、誰もが広範囲から訪れやすい場所です。市ではこの地区に、「公会堂」としての役割を継承しながら、市民の創意工夫で自由に活用できるようにぎわいの空間や、冬期間にも利用可能な屋根付き

の広場などを整備したいと考えています。

「ご意見をお寄せください」

市民のみなさんのご意見をお聞きしながら整備を進めていきます。ご意見をまちなか活性課へお寄せください。

◇ 六月十三日(火)午後六時三十分から厚生会館中ホールで、厚生会館地区の整備や中心市街地の活性化について考えるシンポジウムを開催します。 囲まちなか活性課

市制100周年記念シリーズ
写真で見ると
②

ながおか100年



市民に愛された公会堂

写真は昭和初期の長岡市公会堂です。全国二十四カ所に旅館を展開して旅館王といわれた大野甚松が、二十四万円を投じて建設し、市が寄付を受けて、大正十五年に開館しました。

「堂々たる白亜の壮観は、暮夜にこれを望めば龍宮かと疑わしめる」と記しています。左に見える高塔は、高さが二十五メートルもありました。公会堂には講堂や貴賓室、集会室など十七室あり、坪数は延べ六百四十五坪。二階の講堂は千五百人を収容できたほか、一階のフロアは、長岡最大の食堂として利用されたこともありました。

音楽会や講演会、展示会などの会場として大勢の市民に親しまれ、昭和十二年の年間利用数は五百件を超えました。

中心市街地にあつて昭和二十年の長岡空襲を生き延びたこの公会堂は、老朽化により昭和三十三年に取り壊され、跡地には現在の厚生会館が建ちます。

